



横浜国立大学
台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアム
ご紹介資料

台風科学技術研究センター (TRC)
2024年7月1日

代表ご挨拶

台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアム 代表 筆保 弘徳
(台風科学技術研究センター センター長)

台風科学技術研究センター（TRC）では、台風を人類にとって「脅威」の存在ではなくすだけでなく、今までにない新たなエネルギーをもたらす「恵み」へと変貌させた、安全・安心で持続可能な活力ある社会を実現することを目指しています。

そこで私どもは、台風科学技術研究センターで生まれた学術的知見を活用されたい企業様とともに、相互の強みを生かしつつ協働していきたいと考えております。技術的にも社会的にも解決すべき課題は数多くありますが、社会実装の知見を有する企業と、台風の専門家が協働し総合的な解決を図ることができれば、望ましい社会の実現に近づくことができるはずです。

「台風イノベーション」をキーワードとして、皆様と共に台風と共存する新しい未来を作るため、企業や業界の垣根を超えた“台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアム”へご参加頂きますようよろしくお願い申し上げます。



設立趣旨・目的

設立趣旨

- 台風を人類にとって「脅威」の存在ではなく、エネルギーをもたらす「恵み」へと変貌させ、安全・安心で持続可能な活力ある社会を実現することを目指した**日本初の台風の研究機関「台風科学技術研究センター(TRC)」が発足**した(2021年10月)
- 本コンソーシアムは台風を「恵み」へと変え、安全・安心で持続可能な活力ある社会を実現するために、TRCが中核となり、**多くの民間企業の参画**を得ながら、産学官連携のもと、**台風科学技術を活用した製品・サービスを創出・社会実装を推進し、世界に発信**していくための活動を行う

活動目的

1

情報共有

台風の防災・減災・制御・発電に係る最新研究と取り組みに関する情報共有

2

ロードマップ

台風科学技術の社会実装に向けた課題抽出とロードマップ策定

3

実証試験

社会実証試験の推進

4

事業化

台風の防災・減災・制御・発電に係る事業実現の促進

5

標準化・規格化

台風技術に係る標準化・規格化の検討

6

政策・施策

台風の防災・減災・制御・発電に係る諸政策、施策に関する各所への提案・提言

活動内容

台風科学技術 創出・社会実装コンソーシアム

会員に提供される機会



セミナー参加

会員限定のセミナーを開催
台風の専門家からの講義が受講可能



ニュースレター購読

会員限定のニュースレターを配信
台風科学の最新研究動向を把握



イベント・各種プログラム参加

今後、シンポジウム等各種イベントや追加される各種プログラムに参加可能（一部、有料）



ネットワーキング活動参加

会員同士の交流の場を設定
企業や業界を超えたエコシステム形成を促進



ワーキンググループ参加

特定テーマに対し、関係者で議論を実施
検討結果を政府や関係機関に提言

活動支援

情報連携

横浜国立大学
台風科学技術研究センター



横浜国立大学 台風科学技術研究センター 所属研究者（一部）



筆保 弘徳

横浜国立大学 教授

台風科学技術研究センター センター長
兼 地域防災研究ラボラボ長



佐藤 正樹

東京大学/横浜国立大学 教授

台風科学技術研究センター 副センター長
兼 台風予測研究ラボラボ長



真鍋 誠司

横浜国立大学 教授

経営学部

台風科学技術研究センター
社会実装推進ラボラボ長



森 信人

京都大学 教授

防災研究所 副所長

台風科学技術研究センター 副センター長



坪木 和久

名古屋大学/横浜国立大学 教授

台風科学技術研究センター 副センター長
兼 台風観測研究ラボラボ長



満行 泰河

横浜国立大学 准教授

台風科学技術研究センター 副センター長
兼 台風発電開発ラボラボ長

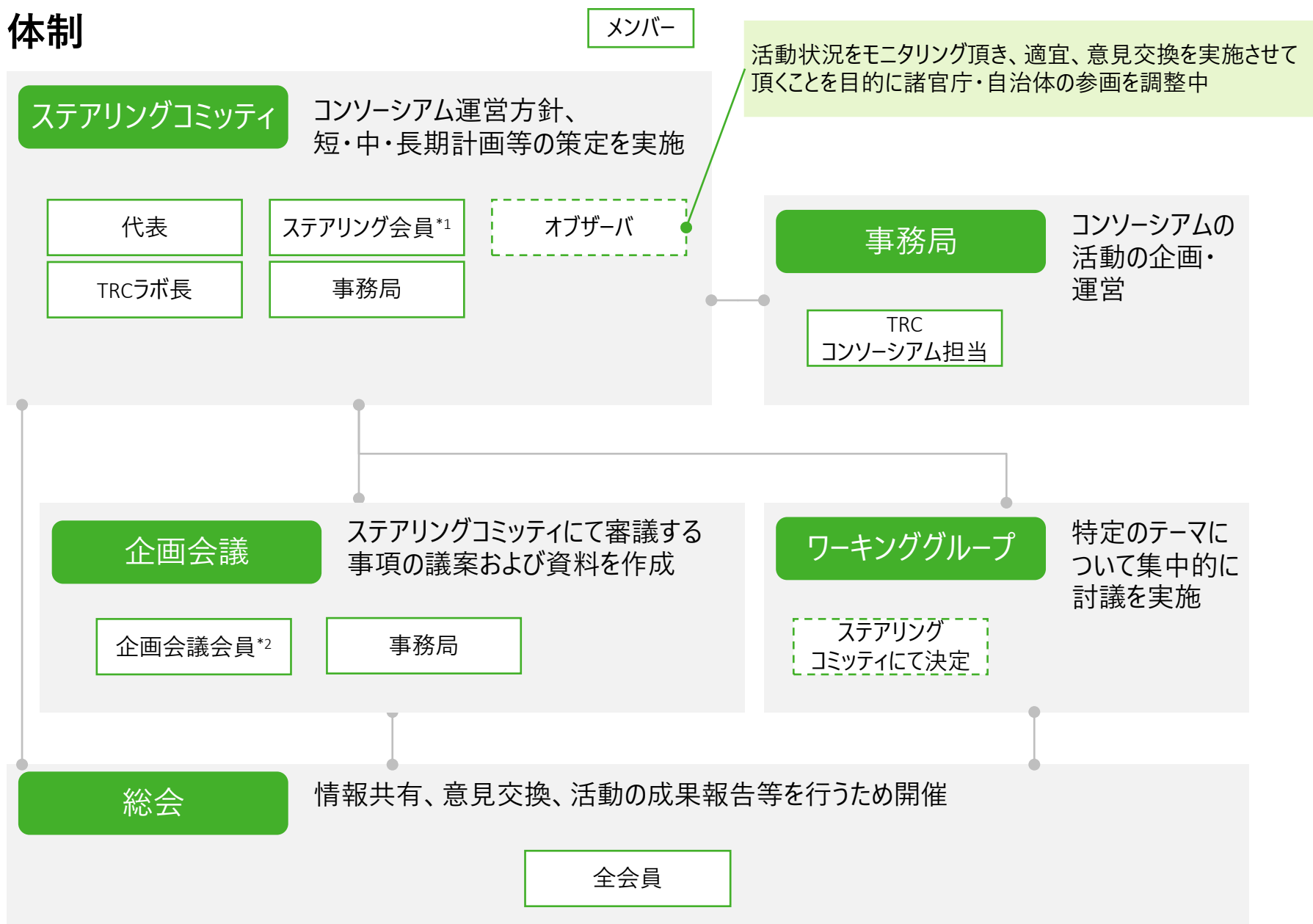
コンソーシアムと共同研究の違い

	新規事業のネタを探したい・・・ 台風について理解を深めたい・・・ 業界全体で活動したい・・・ 様々な企業と情報交換したい・・・	専門家と研究したい・・・ 自社だけで開発したい・・・
	コンソーシアム	共同研究
領域	協調 領域	競争 領域
主旨	■ 台風科学技術の社会実装に向け、制度作りや共通技術の作りこみ等、企業同士で協調して実施することが国益に適うと見込まれる領域について、所属の垣根を超えて協力して活動を遂行	■ 企業の競争優位性を追求するため、横浜国立大学 台風科学技術研究センター（TRC）に所属するの各研究室と個別に研究活動を遂行
成果の共有の範囲	原則、一般に公開 (一部、会員のみ)	共同研究参画企業と研究室
費用	コンソーシアム会費	プロジェクトごとの共同研究費（企業負担）

 **コンソーシアムに参加しながら共同研究を実施することも可能**

※ 共同研究のみ実施、コンソーシアムのみ参画などももちろん歓迎です

体制



*1代表の承認及び過半数のステアリングコミッティメンバーの同意をもって選出。任期は2年

*2代表の承認及び過半数の企画会議メンバーの同意をもって選出。任期は2年

入会案内

会費

*1メンバーとして選定された場合

会員種別		(1) 正会員	(2) 賛助会員
会費		15万円 / 年度	2万円 / 年度
会議体	総会	参加可	
	ステアリングコミッティ	参加可*1	参加不可
	企画会議	参加可*1	参加不可
	ワーキンググループ	参加可*1	参加不可
議決権		1法人・団体につき1票	なし
ネットワーキング活動		参加可	
セミナー		参加可	
ニュースレター		購読可	
イベント・各種プログラム		参加可	

総会

情報共有、意見交換、活動の成果報告等を行うため開催

ステアリングコミッティ

コンソーシアム運営方針、短・中・長期計画等の策定を実施

企画会議

ステアリングコミッティにて審議する事項の議案および資料を作成

ワーキンググループ

特定のテーマについて集中的に討議を実施

入会案内

入会方法

コンソーシアムへの入会をご希望の方は、**Webサイトの入会案内**をご確認の上、**入会申込書に必要事項を記載し、所定のアドレスまで送信**ください。
折り返し、事務局からご連絡を差し上げます。
コンソーシアムに関するお問い合わせやご相談は本コンソーシアム事務局までご連絡ください。

コンソーシアムURL : <https://trc-conso.ynu.ac.jp>



問合せ : ynugr-trc-consortium@ynu.ac.jp

会員企業

2024年7月1日時点

正会員（11社）



日本気象協会

東京海上研究所



東京海上日動



GLOBAL DX



MS&AD

あいおいニッセイ同和損保

Deloitte.
デロイトトーマツ

FUJITSU

MS&AD

MS&ADインターリスク総研



SOTETSU

SoftBank

KDC KANSAI DESIGN COMPANY, LTD.
関西設計株式会社



OBAYASHI

IHI
Realize your dreams



TSUGAWA